

「現地を訪問して想うこと」

1994年 法学部卒業

岩崎 明

11月16日から17日の1泊2日で、東北応援ツアー福島・相馬コースに参加させていただきました。昨年の募集時にも参加を検討したのですが、あいにく日程が合わず断念。今年こそはとの思いで応募し、参加させて頂くことが出来ました。

実際に被災地を自分の目で見て、非常に多くの事を学び、そして多くの事を感じました。福島の復興はまだまだ途上で、終わりが見えない。その一番の原因は言うまでもなく原発で、放射能の脅威に多くの方々が晒されている状況に胸が痛みました。ツアーでは線量が高いとされる地域にも行きました。見た目では山は綺麗で、川の水も澄んでいます。空も綺麗な青空でしたが、線量計で計ると高い数値を示します。目では見えない放射能に汚染されているという事実が信じられませんが、バスの車窓から見える風景には除染物質を詰めた袋を積んである場所や、学校の校庭の一角に設置されている線量計。やはりちょっと違う風景が広がっていました。

東北の復興に対して何かしたいという思いは漫然と持っていましたが、何をしたら良いのか分からない。思いを巡らせて何かをしても、それが本当に喜ばれる事なのか分からない。そういった悶々とした思いを持っている方も多いと思います。私がこのツアーに参加して何の役に立てたのかは分かりません。それでも福島の方々は「とにかく福島に来て下さい」「福島を観光して、美味しい物を食べて帰って頂ければそれだけで十分です」と仰ってくださいました。校友の立谷さんのお店で買った小女子の佃煮、途中で立寄った片平牧場のソフトクリーム。懇親会で飲んだ福島の地酒や果樹園やまとのリンゴ。どれも、とても美味しかったです。福島の方々、同行の校友の方々、沢山の方にめぐり合い、お話を聞き、おぼろげながらも自分に出来る復興支援という物が見えてきた気がします。

このような機会を下さった立命館大学校友会、生のお話を聞かせて下さった福島県校友会の皆様、そして同行の校友の皆様、大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。